

令和4年11月 文書質問及び回答

1 質問者 我孫子洋昌議員

2 質問事項 下川町とオリンピックの関係について

質問の内容・要旨	回答
<p>1. オリンピック開催時（特に本町関係選手が出席する際）は、応援活動や参加選手を表彰する等の取り組みがあるが、それ以外の時期に、町民がオリンピックへの認識を深めるような取り組みはどのようなものがあるか。</p> <p>2. 1972年冬季五輪を契機に札幌市は大きく発展したが、北海道における札幌圏一極集中の契機とも考えられる。現在、札幌市が中心となって招致の動きがある「2030年北海道・札幌冬季オリンピック」について、北海道全体の取り組みという位置付けがあるが、本町としてはどのようなスタンスで臨むか。</p> <p>3. オリンピック選手輩出を続けている本町において、スキージャンプの競技人口を支えるために、町民、特に子ども達への普及を行うための取り組みが急務であると考えるが、現状はどうなっているか。</p>	<p>1. 町民がオリンピックへの認識を深めるような取組みとして、本年3月の中高生の居場所づくり「10代スペース KOTOBUKI」の開催中、北京オリンピック日本代表選手となった伊藤有希選手を招いて、北京オリンピックのことや、オリンピックまでの道のり等の話をしていただき、町民との交流の場をつくりました。</p> <p>また、公民館1階にスキージャンプ競技にかかる展示室を設置しており、下川町出身選手が参加したオリンピック公式スーツの展示をはじめ、世界大会のメダルや用具、下川町ジャンプ競技の移り変わりがわかる写真等を通年展示しております。</p> <p>このほか下川小学校には卒業選手の写真や学校訪問時の集合写真を、下川中学校には選手等から寄贈された写真やスキーアイテム等を展示しています。</p> <p>これらの展示を行うことにより、公民館や各学校に来訪した町民や保護者等のオリンピックに対する機運の醸成に努めています。</p> <p>2. 現在下川町では、北海道より札幌2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致に係る機運醸成への協力依頼が来ており、町で行うノルディック大会やジャンプ大会のプログラムやチラシ等に招致ロゴなどの掲載を行っております。</p> <p>また、北海道の行政・教育機関・スポーツ団体・プロチームオリンピアン・経済団体民間企業がオール北海道で連携する「北海道スポーツみらい会議」のメンバーに参画しています。</p>

3. 教育委員会では、シーズン初めの12月に町民を対象としたスキージャンプ体験会を実施しております（参加者の殆どは小学生）。下川町では K 点 8m、26m、40m、65m のジャンプ台がありますが、この体験会では K 点 8m に加え、手作りの長さが短く高さも低いジャンプ台を使用して実施しています。

また、施設整備としては、ジャンプ体験会後、再度ジャンプを行いたくなった子どもがいつでもジャンプが飛べるようにジャンプ台の整備を行っています。